

# 廃棄野菜を アップサイクルしよう

---

山形県立山形北高等学校

1年 金山愛 田中真白 三浦凜心

# 1. 現状(課題)と解決策(仮説)

## ◎現状(課題)

形が変形していたり、傷が入っているという理由で販売することができずに捨てられてしまっている野菜がたくさんある。このような野菜は、廃棄野菜と呼ばれていて、収穫量の4分の1を占めている。

## ◎解決策(仮説)

売れ残った野菜や、廃棄野菜をアップサイクルして野菜の活用の幅を広げることで廃棄野菜の量を減らすことができるのではないか。また、農家の収入を確保したり、持続的な農作につなげられないかと考えた。

## 2. 仮説の検証と検証結果

### ◎検証方法

- ①インタビュー調査:加藤農園 あなたの食の帰る場所361°
  - ② 実験 :ハーバリウムの作成
- 

### ◎結果

- ・個人営業の農家は、自分で廃棄野菜を肥料として加工をしていたり、近所の人におすそわけしたりなど自ら廃棄野菜を活用していた(①より)
- ・学校給食では、農薬や形の規定が厳しく廃棄野菜を活用することは難しいということがわかった(①より)
- ・市場や直売所では約3日で野菜が廃棄されていて、廃棄野菜が減少しない原因になっている(①より)
- ・野菜は食べる以外の加工も可能であり、アップサイクルの方法は様々であることがわかった(②より)

### 3. 考察

◎解決策(仮説)売れ残った野菜や、廃棄野菜をアップサイクルして野菜の活用の幅を広げることで廃棄野菜の量を減らすことができるのではないか。

---

上記の仮説についての検証の結果を踏まえ、

#### ◎消費者である私達にできること

- ・規格外野菜も他の野菜と遜色なくおいしいことを知り、機会があれば購入する
- ・買い物の際は山形の野菜を買い、地産地消をする
- ・学校の授業や生活の中で、実際に体験活動や農業の学習などの現場を知る機会を設ける

## 4. 展望

### 〈アップサイクルの例〉

#### ①廃棄野菜をカット野菜にする

- ・廃棄野菜をカットすることで、形に関係なく販売を行うことができる
- ・野菜を切るという時間を短縮することができるため、“タイパ”が重視されている現在の世の中に適している

#### ②廃棄野菜をフリーズドライにする

- ・野菜が長持ちするため、旬でない野菜も食べることができる
- ・野菜はフリーズドライしても栄養が損なわれにくい

### 〈アップサイクルの提案〉

★「加藤農園 あなたの食の変わる場所361° 」とコラボして、今回作ってみたハーバリウムをつくることを提案したい